

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／米澤 義彦

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

本年度末で定年退職することになっており、科研費の申請予定はない。

2. 点検・評価

本年度限りで定年退職するため、科研費は申請していない。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

これまで繰り返して提案してきたように、現在のような「学校教育の教員養成」に特化したカリキュラムでは、「研究」を希望する学生を排除したかたちになっている。また、私個人は、学校教育だけが「教育」ではなく、社会教育も「教育」の一環と考えている。したがって、社会教育の指導者養成も本学の重要な課題であると考えているが、学長を始め、理事の方々にはそのような考えがないように見受けられる。「教育」をもっと幅広くとらえて門戸を拡げれば、定員は確保できると考えている。一時、音楽コースや美術コースの入学者が定員を超えていたことがあったが、彼らは「教員」になるために本学の大学院に入学したわけではない。そこを理解していただき、もっと柔軟なカリキュラムにすることが、定員確保の第一歩であると考えている。

2. 点検・評価

平成25年度に、私が卒業研究を指導した卒業生が専門職大学院に入学することになっている。本人の希望は修士課程であったが徳島県教育委員会の指導で専門職大学院にしたとのことであった。本人の希望に添わない形での大学院への入学は、定員確保にはなっても、徳島県のためにはならないと思われる。毛んきょういとの協議を、改めてお願いしたい。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

現在指導している院生と学部4年生の指導をしっかりと行い、学会で発表できる修論や卒論にすることを目標としたい。

2. 点検・評価

学部卒業生、大学院修了生ともに、優秀な成績を収めた。これは私の「手柄」ではないが嬉しいことである。大学院修了生は滋賀県の正規の小学校教員としてスタートすることになっており、また学部卒業生も徳島県の高校の臨時講師に採用になったとの連絡があった。なお、二人の研究成果は、今秋開催される日本植物学会及び染色体学会で発表する予定である。

II-2. 研究

1. 目標・計画

研究を継続している野生ギクの種分化についてある程度のまとめを行うとともに、これまでの大学院生や学部生の研究を取りまとめて学会誌に発表することを、目標としたい。

2. 点検・評価

本年度の修論生などの共著の論文が、現在「生物教育」に印刷中である。また、私の研究室出身の修了生らとの共著の論文wpしゅつちゅうで、4月中には投稿できる予定である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

残り1年であるので、与えられた職務を淡々とこなすとしか言いようがないが、大学運営に関して気がついたことは、これまで通り意見を述べたいと思っている。

2. 点検・評価

定年前の1年であり、大学運営にはノータッチであったが、本学に圃場が設置されて以来、その維持・管理を担ってきた。これは、本来技術コースが責任を負うべきものであるが、「専任」の教員がいないとの理由で、私とその役目を代行してきたものである。たとえ、わずかの面積の圃場であっても、その維持・管理にはかなりの時間と費用を必要とするので、今後は大学がその役目を代行してほしい。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- 1 附属中学校教員との共同研究(附属中学校の教員から私に課せられた宿題?)をまとめ、学会誌等で発表する。
- 2 附属幼稚園の園外保育(サツマイモの栽培)を援助を、これまで通り行う。
- 3 教員教育国際協力センターが中心となって行う、JICAのプロジェクトの支援を行う。

2. 点検・評価

- 1については、4月中旬に投稿予定である。
- 2については、無事終了し次年度以降に向けて引き継ぎを行った。
- 3については、11月に約1ヶ月にわたり、「JICAの「カブール市大学機材整備計画」のフォローアップとしてカブール大学におもむき、教員及びラボテクニシャンに対して、実験指導を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)